

情報誌「たのし」から石川の魅力を発信

氏名：西島 幸夫 職業：経営コンサルタント（ISO取得支援） 都道府県：東京都

石川の紀行文を小さな情報誌「たのし」に時々載せています。

6月帰省の折、金沢の辻家庭園など3つの庭園を歩きました。

[たのし「金沢の由緒ある小さな庭園を巡る」.pdf](#)

金沢へのリピーターには、これからこのようなお勧めスポットの発信が必要です。

これからも金沢の奥深い歴史と文化を訪ねたいと思います。



【以下、読んでいただいた友人の感想です】
恥ずかしながら、一部紹介させていただきます。

●このような遺産がたくさん残っている百万石金沢に文化の厚みと経済力の豊かさを感じます。

家老でも中小大名並みの石高ですからゆとりがありますね。

お書きになるものは魅力的で本当に行きたくくなります。

●鈴木大拙館は金沢に行ったら是非とも訪れようと思っていました。

谷口吉生の建築ですね。金沢21世紀美術館とともに、金沢で行きたい場所のトップ3に入ります。

妹島和世の建築は好きで、フランスのリールに出来たルーブル別館も開館してすぐに見に行きました。

ロマネスクのような古い建築も好きですが、現代建築の美しいのも大好きです。

高山右近が金沢に居たのは知りませんでした。

いろいろ新しいことが分かって嬉しいです。

金沢の由緒ある小さな庭園を巡る

歴史と文化が彩る三つの庭

いしかわ観光特使 西島 幸夫

待望の北陸新幹線が来春に開通する。東京・金沢を2時間半で結ぶ最速列車の愛称は「かがやき」と決まった。光のスピード感と、未来に明るく伸びる飛躍のイメージだという。今回は「兼六園」のように有名ではないが由緒ある庭園を訪ね、陰影に富んだ歴史の奥深さを味わった。

小川治兵衛作庭の近代庭園

寺町台の「辻家庭園（国指定登録有形文化財）」が最近公開されたと聞いて訪ねた（寺町1丁目8）。旧加賀藩家老横山家が明治末期から大正初期頃に建てた別荘・迎賓館だ。高台の母屋の芝庭から犀川や市街地が一望でき、斜面を降るように歩くと四季折々の植栽が楽しめる庭だ。特に落差3.5mの大滝は富士山の溶岩を横上げて造っている。当時の運送事情を考えると奇想天外な計画だった。滝の流れは溪流となり池泉へ注いで深山幽谷の趣がある。斜面を巧みに利用した造園は当時の先進国・

英国の影響を受けているという。

京都の庭師として有名な7代目小川治兵衛の作。東京では椿山荘や古河庭園がよく知られている。金沢にも治兵衛の作庭があったことに驚いた。当時で20万円（現在の約40億円）の巨費を投じている。母屋の芝庭に面した群青の間は、壁を鮮やかなコバルトブルーで仕上げた貴賓室だ。高貴な群青色に高価なラピスラズリを入れる心意気に加賀百万石文化の伝統を感じる。



群青の間から四季の眺望と自然が楽しめる辻家庭園

家老の武家庭園・松風閣

「鈴木大拙翁」は禅の研究で名高い鈴木大拙翁を記念する静逸な館だ（本多町3丁目）。禅が見直され思索の空間に惹かれる人は多い。すぐ隣の「松風閣庭園（有形文化財）」を覗く。江戸初期の作庭で兼六園よりも古い。加賀藩筆頭家老本多家（5万石）と茂る木々、苔むした緑陰の庭

に古沼（霞ヶ池）がひっそり横たわる。幼い頃にここに住んだ本多家15代当主は、昼間でもうす



代々大切に受け継がれてきた本多家庭園

暗い庭の奥に畏敬の念にも似た恐ろしさを感じ、家族から「森には『本多の狐』がおるからね」と聞かされたという。代々の当主が大切にきた庭への思いが宿っていることだろう。「本多の森の蟬時雨」は「残したい日本の音風景100選」に選ばれている。森の崖線に沿った「緑の小道」を辿ると金沢市立中村記念美術館に繋がっていた。そこから崖地の「美術の小径」を登ると、その脇に清冽な用水が流れていて、街中とは思えない。兼六園や石川県立美術館に通じる近道になっていた。

切支丹で帰化人の武家庭園

梅雨の街角に紫陽花が咲いていた。次に訪ねた「玉泉園」は兼六園の傍の崖地を利用した池



望郷の想いを癒したであろう玉泉園

泉回遊式庭園（石川県指定名勝）である（小將町8番。兼六園より120年も古い。雨上がりのしっとり苔むした上下2段式の庭園を歩いた。玉潤流という珍しい築庭で飾る。この武家庭園の主・脇田直賢は7歳の時、朝鮮出兵・文祿の役（1592年）で備前の子戦国大名・宇喜多秀家によって朝鮮から岡山に連れてこられた金如鉄である。秀家の正室豪姫（前田利家四女）によって育てられたが、豪姫は金沢へ戻されることになり、少年直賢も御付きとして伴う。後に2代前田利長の正室永姫（玉泉院・織田信長四女）に預けられ大切に養育されたという。成人し脇田家を創設。学芸に秀でていたが、大坂夏の陣の戦功で禄高1500石を食み、変動きわまらない人生を歩んだ。高山右近の影響を受けてキリシタンになり、庭には隠れ切支丹灯籠があった。右近は家康に国外追放されるまで26年間も客将として金沢に住んだ。

脇田家2代の直賢は茶道を裏千家始祖・千仙叟茶室に学んで、庭園最上段には師の指導により造られた400年前の金沢最古の茶室がある。

玉泉園のテラスで抹茶を頂きながら、帰化人・脇田直賢の数奇な運命に思いを馳せた。

（2014年7月）